霞 ―2023年度　博物館だより―

土浦市立博物館
令和5年9月1日発行（番外第15号）

土浦市立博物館は、大規模改修工事のため、令和４年７月５日（火）から令和６年１月上旬（予定）まで休館いたします。博物館だより「霞（かすみ）　番外」では、毎月、工事の進捗状況や館外で開催する展覧会や講座の情報をお伝えします。休館中の「おうちもミュージアム」（解説動画）では、土浦市内の史跡や文化財などの見どころを紹介します。

博物館は休館中！（15）「玄関まわりも整備しています」

博物館の顔となる入口周辺も、安全・安心な空間となるよう、リニューアルしています。老朽化した自動ドアは、まるごと取り外し一新しました。スロープや舗装を整え、博物館入口に大きな看板も新設しています。

新しい自動ドア資材

リニューアルした自動ドア

新設した入口の看板

スロープや舗装の改修

左のＱＲコードから「おうちもミュージアム」（解説動画）のウェブページへアクセスできます。

霞（かすみ）　２０２３年度　博物館だより（番外第１５号）
編集・発行　土浦市立博物館　茨城県土浦市中央１－15－18
TEL　029－824－2928　FAX　029－824－9423
http://www.city.tsuchiura.lg.jp/page/dir000378.html

博物館だより「霞」番外第１６号の刊行は、令和５年10月１日（日）を予定しています。
※「霞」バックナンバーは、当館ホームページからもご覧になれます。（カラー版）

２０２３年９月　おうちもミュージアム解説

健やかな成長を見守る

―土浦幼稚園の園舎―

令和５年９月１日は、大正 12（1923）年の関東地震（関東大震災）の発生から 100 年にあたります。土浦地域でも大きな揺れを観測しました。震災当時、土浦幼稚園（明治 18〈1885〉年開園）は土浦尋常高等小学校（大手町、現土浦小学校）の附属幼稚園として運営されており、小学校の敷地の北側に位置していました。当時の園舎は、木造洋風２階建ての小学校の校舎の隣に建つ木造平屋建てで、建物には保育室が３室ありました（写真１）。土浦幼稚園の『創立百周年記念誌』には、園舎屋根その他が被害を受け、余震がやまず小学校の校庭に避難したと記されています。

同じく被災した小学校の増築計画に伴い、幼稚園は新園舎を小学校の東側の一角に新築することになりました。写真２が新築した園舎です。小学校同様ピンク色の木造２階建てで、保育室が４室、遊戯室が１室と職員室（２階）などが設けられました。

小学校の文集『たまき』第３号（大正 13 年発行）には、設計に携わった主任保母吉川コハルによる「園舎改築に就て」が寄せられています。そこには、幼稚園は幼児の心身の発達のため、周囲と環境に配慮することが最も大切であること、モンテッソーリの「子どもの家」を意識し設計したことが記されています。

「子どもの家」とは、イタリアの医師・教育家で、感覚訓練のための教材を工夫するなど、障害児教育を研究したマリア・モンテッソーリ（1870～1952）が、その教育を実践するためにローマに設立した施設です。モンテッソーリの教育は、当時の最新の教育法として紹介されていました。

吉川は「園庭」を重要視していました。「幼児には園舎も園庭も同じ生活を充実する環境」であり、園庭は「全体が運動場の形式でなく庭園であること、見渡して気持ちよく情趣あること」と述べているように、写真３からは、松の大木や築山が配された趣のある園庭であった様子がうかがえます。

50 有余年親しまれてきた園舎は、老朽化により、昭和 55（1980）年には鉄筋コンクリート造の園舎に建て替えられました。その後、平成 24（2012）年４月に土浦幼稚園はいくぶん幼稚園（文京町）との統廃合によりいくぶん幼稚園の園舎に移転、土浦幼稚園として運営されてきましたが、令和４（2022）年３月には惜しまれながら廃園という形になりました。

しかし、このたび令和５年 10 月に、幼保連携型の認定こども園、「土浦市立認定こども園土浦幼稚園」が文京町の園舎をリニューアルし開園します。新しい「土浦幼稚園」も、幼児の健やかな成長を見守る場となることが期待されます。

（野田礼子）

写真１　園舎前の園児と保母（大正９年撮影）

写真２　大正 13 年新築の園舎（昭和３年撮影）

写真３　園庭で遊ぶ園児（昭和３年撮影）